

ロータリー・リーダーシップ研究会

The Rotary Leadership Institute(RLI)

RLI 参加者テキスト



RLI
2015~18

RLI 日本支部

カリキュラム委員会

ロータリー・リーダーシップ研究会

The Rotary Leadership Institute (RLI)

RLI 参加者テキスト

目 次

日本語版テキスト発刊にあたり	RLI日本支部委員長	北 清治	4
日本版カリキュラムについて	RLI日本支部カリキュラム委員長	江崎柳節	5
カリキュラムのスパイラル展開について	カリキュラム委員	本田博己	6
第1章 RLIカリキュラムの内容			
パート I			9
1.	リーダーシップの本質をつかむ		12
2.	私のロータリー世界		14
3.	倫理と職業奉仕		22
4.	財団Ⅰ 私たちの財団		28
5.	会員を引き込む		38
6.	奉仕プロジェクトを創造する		45
パートⅡ			51
1.	戦略計画とクラブの分析		54
2.	会員を惹き付ける		68
3.	チーム作りとクラブコミュニケーション		71
4.	ロータリー財団Ⅱ 目標とする奉仕		79
5.	強いクラブを創る		87
6.	米山記念奨学事業		92
パートⅢ			101
1.	ロータリーの機会		104
2.	効果的なリーダーシップ戦略		112
3.	ロータリー財団Ⅲ 国際奉仕		116
4.	公共イメージと広報		120
5.	規定審議会		124
6.	変化をもたらす		131
卒後コース			137
ボランティアを動機づける			139
広報			155

第2章 効果的なファシリテーション・ガイド	159
第3章 R L I の準備と進め方	187
第4章 R L I 世界本部	188
第5章 R L I 日本支部事務局	190
R L I 日本支部役員名簿2015 - 18年度	190
日本支部事務局機能職務分担2015 - 18年度	192
第6章 R L I 日本支部の会則	193

RLI 研修テキスト日本語版発刊にあたり

RLI 日本支部委員長 北 清治

この度、RLI 研修テキスト（2015-18 年度）日本語版が発刊できますことを関係各位に深く感謝申し上げます。

特に今回の発刊にあたりまして日本支部カリキュラム委員会の江崎柳節委員長、本田博己副委員長、岩淵均委員、刀根荘兵衛委員のご尽力に感謝申し上げます。

RLI は1992年アメリカ・ニュージャージー州第7510地区において、元 RI 理事デビット・リンネット氏の発案で始められた研修組織であります。日本では、2008年6月元 RI 理事南園義一日本支部委員長の下でスタートしております。2011年7月元 RI 理事黒田正宏氏に日本支部委員長が引き継がれ、2015年7月不肖北清治が日本支部委員長に就任することとなりました。微力ではありますが誠心誠意職責を果たして行く所存でおりますのでよろしくお願い申し上げます。

日本支部副委員長に RI 理事杉谷卓紀氏（2014-16 年度）と RI 理事ノミニー斉藤直美氏（2016-18 年度）に就任して頂きました。また、日本支部事務局長に岩淵均氏が就任し、前任の中村靖治氏はファシリテーター委員会の委員長に就任しました。

RI 理事会は、2002年2月の理事会で RLI の名前にロータリーの名前を使うことを許可し、ロータリーの地区によって管理されている草の根のプログラムとして認めております。

2013年の規定審議会で RI のプログラムとするよう決議（13-168）されましたが、既に充実したプログラムとして成功していること。もし RI のプログラムに組み込んだ場合、保証を与えるために管理的な重荷を引き受けることになるなどの理由で、現状の姿を求めています。ゲーリー・ホアン RI 会長（2014-15 年度）はコメントを出し、RLI の成功を評価すると共に同じ認識を示しております。また、RLI 本部も共通認識を理解しております。

RLI 日本支部は、その目的を、RLI の理念に従ってリーダーシップの研修を通じて、ロータリーの活性化と発展を願い、一人ひとりのロータリアンのロータリーへの理解とモチベーションを高め、リーダーシップを涵養することである、

としております。現在、日本の14地区が参加しており、世界では369地区が参加しております。日本の全地区の参加によって、ロータリアンの自主性と卓越した指導力を涵養し、クラブの刷新性と柔軟性を育み、一層ロータリーが活性化されることを期待致しております。

日本版カリキュラムについて

RLI 日本支部 カリキュラム委員会
2015-2017 年度 委員長 江崎柳節

このほど RLI テキスト最新版（2015-2018 年版）が RLI 本部のウェブサイトで公開されました（2015 年 7 月）。日本支部のカリキュラム委員会では早速日本版テキストの改訂に着手しました。

今回も、刀根荘兵衛委員の翻訳を基に、本田博己副委員長、岩渕均委員と委員長の私が校訂を施し、日本版カリキュラムの構成について 4 人で検討した結果が本テキストです。

原典（英文）の内容に忠実に、しかも日本語として違和感の無い訳文になるよう極力努めました。短期間の作業でしたので不十分な点はお許しいただきたいと存じます。

カリキュラムの構成は、従来版から大変更された前回の 20 周年記念版（2012-2015 年版）とは大きな異同はありませんでした。ただ、パートⅢの「国際奉仕」のセッションが「財団Ⅲ」という扱いになり、パートⅠからⅢまでのすべてのコースで「ロータリー財団」について学ぶ構成になりました。

日本版のカリキュラムは前回と同じ方針に従って、日本のロータリー活動に合致するよう原典を一部変更しております。変更した内容は下記のとおりです。

1. パートⅡの「戦略計画と分析」（ダブル・セッション）をシングル・セッションとしています。また、パートⅡの「チーム作り」と「クラブ・コミュニケーション」とを合体させて「チーム作りとクラブ・コミュニケーション」としました。クラブ・コミュニケーションを十分にとることにより、クラブが強化され、逞しい組織ができることを前提として1つのセッションにしています。
2. パートⅡに「米山記念奨学会」を入れました。もちろんこのセッションは RLI テキスト原本には無いものですが、日本ロータリーにとってはたいへん大事なプログラムですので、前回と同様に加えています。
3. パートⅢに「規定審議会」を加えたのは前回と同様です。日本のロータリアンにとって規定審議会に対する認識を深める重要な機会と考えています。

訳語・訳文としてお気付きの箇所がございましたら、どうぞご遠慮なくご指摘いただければたいへん幸甚に存じます。

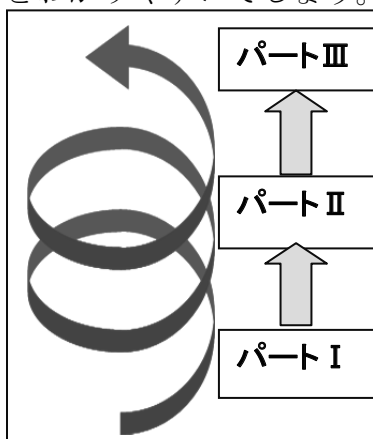
カリキュラムのスパイラル（らせん的）展開について

RLI 日本支部 カリキュラム委員会
2015-2017年度 副委員長 本田 博己

RLI テキストの 2012-2015 年（RLI 創立 20 周年記念）版（前回）では、「カリキュラム・スパイラル」という体系に各セッションが位置づけられていることがその最大の特長でした。

今回の最新版（2015-2018 年版）では、カリキュラム・スパイラルの図は明示されていませんが、カリキュラム構成に大きな変更はなく、このスパイラルの構造は保たれています。

「スパイラル」の原語 “Spiral” には、「らせん（渦巻き）状のもの」という語義があります。「RLI のカリキュラム・スパイラル」は、らせん階段に例えるとうわかりやすいでしょう。



らせん階段は、昇ってくる人を真上から見ると、円運動を繰り返しているだけですが、同じらせん階段を真横から見ると、人は 1 階から 2 階、2 階から 3 階へとフロアを上がってきます。

今回のテキストは、1 階（パートⅠ）では、私たちロータリアン一人一人が学ぶべきテーマが各セッションのテーマとなっています。

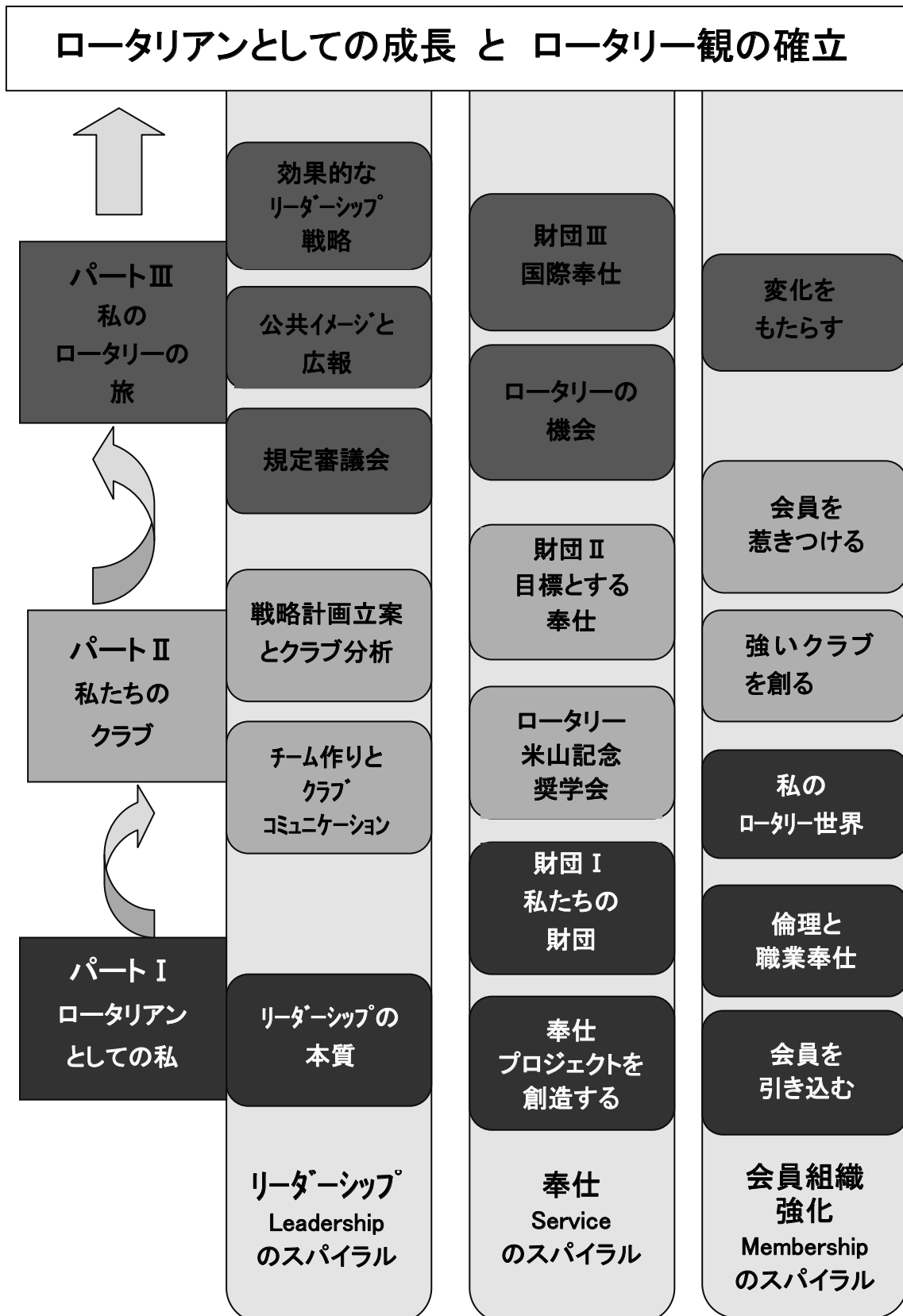
2 階（パートⅡ）では、私たちの所属するロータリークラブが、より効果的クラブに成長するための課題が各セッションのテーマとなっています。

そして、3 階（パートⅢ）は、「私のロータリーの旅」“My Rotary Journey”とタイトルが付いているように、パートⅠとパートⅡでの学びを基に、より幅広く奥深いロータリーの世界を学ぶ「旅」となっています。そのゴール（目的地）は、**私たち一人一人の、ロータリアンとしての成長とロータリー観の確立**です。

「カリキュラム・スパイラル」のもう一つの特長は、カリキュラムが 3 つの大きな「スパイラル」の柱で構成されていることです。すなわち、「リーダーシップ」“Leadership”、「奉仕」“Service”、「会員組織強化」“Membership”の 3 本柱です。“Membership”は、狭義の「会員増強」（会員を増やすこと）だけでなく、会員自身やクラブ組織が成長・強化してゆくための「会員組織」の諸要素を示しています。パートⅠからパートⅢまでのすべてのセッションは、この 3 つの「スパイラル」の柱のどれかに含まれています。

RLI セミナーに参加される皆様が、このように構造的・体系的に構成されたテキストの「カリキュラム・スパイラル」の展開の流れを意識しながらコースに取り組んでいただければ、より一層ロータリー理解が進むに違いありません。

RLI 日本版カリキュラムのスパイラル(らせんの展開)



RLI について

RLI はロータリークラブの潜在的なリーダーのためのリーダーシップ開発プログラムを実施する多地区の「草の根連合組織」です。

RLI は 1992 年に設立され、今や世界のすべての大陸に支部を置く全世界的な組織となりました。

RLI は国際ロータリー (RI) の正式なプログラムではありませんが、多くの元 RI 会長や現、元、次期 RI 理事より大きな支援を得ています。

RI 理事会は RLI および同様の地区プログラムを推奨する決議案を採択しました。また、規定審議会では 2013 年に開催された規定審議会を含め、3 度 RIRLI プログラムを賛成多数で可決し、RI 理事会に推奨しています。

RLI のプログラムや歴史については、ウェブサイト www.rotaryleadershipinstitute.org をご参照ください。

RLI 推奨カリキュラム

RLI はすべての支部にカリキュラムを推奨し、その全概要を提供しています。カリキュラムは絶えず改定され、年々アップグレードされています。RLI の拡大成長に伴って、指導者を養成させるための十分な機会が各ゾーンに与えられ、大きな改定は 3 年ごとに実施されます。またそれぞれのゾーンに必要な翻訳も提供されます。

RI やロータリー財団の重要な変更はすべて、毎年すべての支部に提供されます。

すべてのカリキュラム資料や翻訳は RLI 資料ウェブサイト www.rlifile.com 上で、全会員に開示され、利用できるようになっています。

RLI カリキュラム委員会

委員長 Gray Israel、RLI Sunshine 支部

編集長 Bevin Wall ゾーン 33 RLI

ARGENTINA

CENTRAL/SOUTH &

BOLIVIA

PDG Juan Pedro Torroba,
Chair

PDG Miguel A. Martinez

ATLANTIC/ ATLANTIQUE

PP Kim Pearson, Chair

BUENOS AIRES & PERU

RI Dir-Elect Celia Giay, Chair

GREAT LAKES (US/ CANADA)

PDG Renee Merchant, Chair

HEART OF AMERICA (US)

PDG Jane Malloy, Chair

PDG Bob Malloy

S. ASIA (INDIA/ NEPAL/ SRI

LANKA) PP Binod Khaitan,

Ex.V-Chair

JAPAN 日本

PRID Seiji Kita, Chair

(北 清治 元 RI 理事)

MEXICO

PDG Adriana de la Fuente

PDG Salvador Rizzo Tavares,
Chair

NORTHEAST AMERICA (US)

PDG Knut Johnson, Training
Chair

PDG Ann Keim, Reg V.Chair

PRID David Linett, RLI-Int.
Chair

PDG Toni McAndrew, Chair

PDG Tam Mustapha, RLI-Int
V.Chair

PDG Michael Rabasca,

RLI-Int Ex. Director

PDG Frank Wargo, Materials
Chair

ST. LAURENT (QUEBEC, CANADA)

PDG Yves Fecteau, Chair

PDG Gilles Gravel

PDG Claude Martel

SUNSHINE (SOUTHEAST US/ CARIBBEAN)

DGN Robert "Bob" Arnold

PDG Jim Henry, Past Chair

PDG Gary Israel, Chair

Debbie Maymon, Registrar

PDG Doug Maymon,
Chair-Elect

Brenda Wendt, Secretary

ZONE 33 (MID-ATLANTIC US/ CARIBBEAN)

PRID Eric Adamson, Past Chair

PDG Bevin Wall, Ex. Director

Pam Wall, Faculty Trainer